

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立別子小・中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒799-0650

愛媛県新居浜市別子山甲 358 番地

E-mail besj-ad@esnet.ed.jp

Website https://besshi-ej.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 8名 女子 6名 合計 14名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～14歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校は、ESD テーマを「地域文化の継承」「自然や先人から学ぼう」「ふるさとを守ろう」と設定している。

このテーマに基づく学習を通して、持続可能な社会の担い手に必要な知識・理解・姿勢・態度・能力を身に付け、さらに身近な地域の自然環境や社会の持続可能性について考え、「地域おこし」ひいては、地方創生の課題に取り組むとともに、地球的諸問題の解決について、児童生徒が、自分自身の考えをもてるようになることを目的とする。

具体的には、「地域文化の継承」では、①新居浜勇太鼓の演奏、「自然や先人から学ぼう」では、②銅山峰登山と③魚つかみ大会、「ふるさとを守ろう」では、④壁画制作と⑤ありがとう週間の活動を行った。

【活動の実際】

① 新居浜勇太鼓の演奏 (全校児童生徒)

今年度も昨年度に引き続き、大生院地区の和太鼓集団『黒森会』の方を講師に招き太鼓の基礎や「新居浜勇太鼓」の演奏を指導していただいた。その後の練習では、パートごとに分かれ中学 2 年生が中学 1 年生に教えたり、互いに演奏方法等を改善したりした。活動を通して新居浜市の伝統文化を継承することの意味や大切さを実感できた。

また、別子校区産業文化祭や小・中音楽発表会で披露し、地域の方や保護者から、「2 年生は昨年よりさらにたくましくなり、全体的に迫力がある演奏だった。」という言葉を受けた。

② 銅山峰登山（全校児童生徒）

日浦から銅山峰を経て東平まで保護者と登山した。事前学習として、中学1年生は、学校近辺の自然（甌穴、エクロジャイト等）や南光院、別子銅山の近代化産業遺産について資料やインターネットを活用し調べ学習を行った。中学2年生は、事前学習を重ね、当日の登山では、中学1年生や小学生、保護者に別子銅山の近代化産業遺産についてのガイドを行った。別子山地区の自然環境や、近代化産業遺産について体験的に学習した。

③ 魚つかみ大会（全校児童生徒、市街地の小学生と家族）

地域の連合自治会、別子小・中学校PTAと協力し、市街地の小学生の参加を募り実施した。放流したアメゴをグループで協力して捕まえ、河原で調理し炭火で焼いて食べた。川の水の流れを体で感じ、水中の魚に手で触れ、別子山地区の自然を感じる中で体験的に自然保護について考えることができた。

④ 壁画制作（全校児童生徒）

別子郵便局前に壁画制作を行った。各自が考案したデザインを持ち寄り下絵を決定し、ペンキで彩色を行った。決定した下絵は、以前まで描かれていた別子小・中学校の卒業生の方々のアイデアと想いを引き継ぎ、生徒が今までに見て感じた「別子の宝」を集めた図案となった。寒い中での作業であったが、地域の方々に声を掛けていただきながら、最後まで諦めず全員で仕上げた一体感や達成感と、地域の方々とつながりを感じ、大きな充実感を味わうことができた。

⑤ ありがとう週間（全校児童生徒）

「ありがとう週間」の期間を設定し、お世話になっている方々に小・中学生からのお礼の手紙、手作りの別子小・中学校カレンダー、地域の山で拾ったどんぐりを材料に小学生が作ったキーホルダーをお渡しした。



① 新居浜勇太鼓の演奏



② 銅山峰登山



③ 魚つかみ大会



④ 壁画制作



⑤ ありがとう週間

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

『別子銅山近代産業ガイドブック』新居浜南高等学校情報科学部、2006
『百年の計』今に受け継がれる住友の心 住友グループ広報委員会 2016
<http://www.sumitomo.gr.jp/related/index02.html> 『別子銅山記念館』

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDに関連する活動内容は、「総合的な学習の時間」を柱として実施している。各教科や特別活動と連携したり、特別活動と抱き合わせたりしながら実施する場合もある。ESDカレンダーに基づき、核となる活動内容を念頭に置いて、各教科で関連性を考えながら該当単元の指導を実施している。

単元での指導内容に対する具体性や親近感を高めるために、ESD活動を授業で取り上げるなどの工夫をしている。

指導目標、内容、方法については、総合的な学習の時間の全体計画で示し、年度末に担当者を中心にその改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

小学校と中学校のESD担当者が、各教科との関連を考えてESDカレンダーを作成し、「総合的な学習の時間」の担当者が活動目的や内容及び具体的な実施計画を作成している。活動内容に応じて管理職を含めて担当者を割り当て、責任ある立場で関わる教職員の数が増えるようにしている。地域からゲストティーチャーを招聘するなどして地域人材を活かしている。

また、校区外から人を集める大きな活動では、地域との連携を活かして実施可能な環境整備に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

各活動後に児童生徒に「活動の振り返り」ができるように、自己評価を含めて感想を書く機会を設けている。活動内容、感想に加えて、活動の質の向上のためにどういう工夫やアイデアがあるかを書くように指導している。工夫を考えることで活動の振り返りが深まると考えられる。

教職員にも活動の意義や意味を再考してもらったり、効率化と利便性の向上のための改善点をあげてもらったりしている。また、学校の担当者が地域担当者と前年度の反省を活かすための話し合いをしている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

銅山峰登山、魚つかみ大会、新居浜勇太鼓の演奏、壁画制作、諸外国の文化の理解と共生についての活動の様子や成果を、学校のHP、毎月1回発行される学校だよりに掲載している。学校だよりについては、校区である別子山地区に全戸配付されており、地域の方々から温かい言葉を頂くと共に、子どもの中に地域や人々とのつながりが芽生えてきている。また、市内のESD発表会や福岡県大牟田市のこどもサミットで1年間の取組を発表した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESD担当者が市が実施する研修会に参加し、ESD活動支援団体や大学の先生のお話を聞く機会を持った。市研修会では、ESD活動支援団体の方に同行して来られた森林管理局の方が、ESD活動の中にどのようにして森林資源の活用についての学習を取り入れていくか紹介された。

今後も、研修会等に積極的に参加し、様々な団体や人とつながるきっかけを大切にして、ネットワークの形成に努めたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

昨年度末にユネスコスクールとして認定を受けたばかりであるため、広く国内外との交流を進めるには至っていない。そのような中で、今年度は福岡県大牟田市のこどもサミットに中学2年生5名が参加し、集まった各校と交流ができた。また、市内のESD発表会では舞台発表をする機会をもらい、活動内容の紹介を行った。他の小中学校の活動内容も見聞きして近隣の学校とお互いの活動から学び合うよい機会になった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

地域や地域の人と教職員や児童生徒とのつながりを作り、深める好機となった。活動を通して、地域を知ろうとする学校側と地域の良さを伝えよう広めようとする地域の方々が共に準備・学習・活動をする機会が増えた。豊かな自然の魅力や地域に残る近代化産業遺産について知ること、教職員や保護者は地域の魅力を再認識し、児童生徒は地域に誇りを持つことにつながった。また、学習を通して学んだことを広く発信する機会を設けることでプレゼンテーション能力の向上にもなった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の活動内容を引き継ぎ、目的に沿った工夫を加えながら実施方法、指導方法を改善していく予定である。来年度は中学生が3学年全て揃うため、各活動で中学3年生がリーダーとして活動する場を増やしたいと考えている。2年間の経験から学んだことを伝えたり、それを元にしてアドバイスをしたりしながら他の児童生徒の学習や活動の助けとなる役割を果たさせたい。その中で、リーダー性やコミュニケーション能力を更に高められるように手立てを工夫したいと考えている。主な活動内容は次の通りである。

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| ● 銅山峰登山 | （環境、伝統文化） | 【小・中学生】 |
| ● 新居浜勇太鼓 | （伝統文化） | 【小・中学生】 |
| ● 魚つかみ大会 | （環境、生物多様性） | 【小・中学生】 |
| ● ありがとう週間 | （地域貢献） | 【小・中学生】 |
| ● 野菜栽培 | （食育） | 【小学生】 |